

韓国青年訪日団（第4～5団）招へい事業の記録

1. プログラム概要

【目的】「対日理解促進交流プログラム(JENESYS2023)」の一環として、在大韓民国日本国大使館にて選抜された大学生等を招へいし、テーマ「日本の少子高齢化対策と地方再生事例（青森県）」の下、各種視察、学校訪問、講義聴講等を通じて、日本に対する理解を深めることで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】 プレプログラム（オンラインによる事前学習） 韓国の大学生等 67名
招へいプログラム 韓国の大学生等 67名

【訪問地】 プレプログラム 東京都 67名
招へいプログラム 東京都、青森県 67名

【日程】

■ プレプログラム：

12月27日（水） 訪日前オリエンテーション（プログラム説明）

■ 招へいプログラム：

1月9日（火） 羽田国際空港より入国、来日時オリエンテーション

1月10日（水） 【表敬】外務省、歓迎昼食会

【視察】駐日韓国大使館韓国文化院

【視察】李秀賢氏追悼・顕彰碑視察等の新大久保フィールドワーク

1月11日（木） 【学校訪問・交流】（第4団）法政大学、（第5団）目白大学、青森県へ移動

1月12日（金） 【表敬・講義】青森県庁「少子高齢化対策と地方再生への取組みについて」

【視察】青森県観光物産館

【講義】「地域×若者×企業 若者が挑戦できる町へ」

1月13日（土） 【講義】「地域で子どもたちを支え合う取組み」

【視察】十和田市現代美術館、十和田市教育プラザ、市民交流プラザ「タワーレ」

【交流】ホームステイ

1月14日（日） 【交流】終日ホームステイ

1月15日（月） 【交流】ホームステイ解散式

【学校訪問・交流】青森中央学院大学

1月16日（火） 【視察】ねぶたの家ワ・ラッセ、成果報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）
東京都へ移動

1月17日（水） 羽田国際空港より出国

2. 記録写真



2024年1月10日【講義】
「最近の日韓関係について」



2024年1月11日【学校訪問・交流】
法政大学



2024年1月11日【学校訪問・交流】
目白大学



2024年1月12日【表敬・講義】青森県庁
「少子高齢化対策と地方再生への取組み」



2024年1月12日【講義】
「地域×若者×企業 若者が挑戦できる町へ」



2024年1月13日【講義】
「地域で子どもたちを支え合う取組み」



2024年1月15日【交流】
ホームステイ解散式



2024年1月15日【学校訪問・交流】
青森中央学院大学

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 大学生

少子高齢化や地域再生は避けては通れない世界的な課題であるため、日本の事例を見て、韓国に合った解決策は何かを考えることができました。また、様々な分野や方法で地域再生に取り組んでいる方々の話を聞き、地域再生のために自分の強みをどのように活かすことができるかを考える時間を持つことができました。何よりも、大学訪問先では国籍を越えて、このようなテーマについて考え、議論できる仲間と出会えたことが嬉しかったです。

◆ 韓国 大学生

重要なお客様をお迎えする日本の迎賓館を視察し、日本の様々な建築様式やお客様へのおもてなしの心を垣間見ることができました。大学生との交流では、普段考えたことのない視点で少子高齢化や地方再生についてアプローチし、新たな視点を持つことができたのがとても良かったです。参加した大学生全員が韓国に興味を持っていて、韓国に留学する予定の学生がたくさんいました。今回のクールジャパンリポーターを通じて出会った日本の友人とは長い付き合いになりそうです。

◆ 韓国 大学生

行政と民間の立場から、同じ問題に対して少し違う視点で見ることができたのが良かったです。また、ホームステイがあったのが本当に良かったです。直接感じて学ぶ日本での生活という点がとても心に響きました。ねぶたの展示は、壮大でダイナミックな絵とそれを再現したねぶたの作品が印象的で、青森と日本の伝統的な文化芸術を見ることで、職人技や日本的な芸術の世界について考えることができました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 青森県庁関係者

雪が多く寒い中、韓国からたくさんの大学生が青森県まで足を運んでいただいたことを嬉しく思います。本県で実施した講義「少子高齢化対策と地方再生への取り組みについて」では、参加した学生のみなさんが真剣に講義に耳を傾け、講師に質問するなど積極的な姿勢が印象的でした。みなさんが日本と韓国の架け橋となって、ますます交流が拡大していくことを期待しています。

◆ ホームステイ受入れ家庭

韓国の青年たちと接するのは二度目です。どなたも礼儀正しく、フレンドリーに過ごしてくれました。特に高齢者に対する接し方で感じるのは、話をよく聞いてくれることです。親切で、私たちに自信を与えてくれます。また日本に興味を持っていることや好きなものがたくさんあることが嬉しかったです。共通の話題ができました。

◆ 法政大学学生

元々大学の留学制度で韓国に留学予定でしたが、コロナにより行けなくなってしまいました。韓国に触れる機会が少なくなっていく中で貴重な交流に参加し、「韓国の方と言葉と心で繋がることできる」という体

験ができ本当に嬉しかったです。同時に、私はこんなに外国の人と繋がれることに喜びを覚えるのだと、自分への認識が深まったように思います。

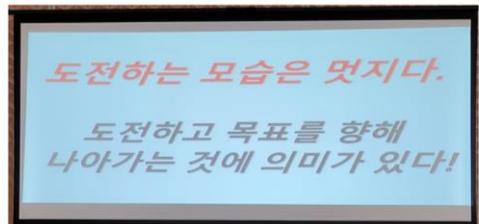
◆ 目白大学学生

とても明るくフレンドリーな学生と同じグループであったため、会話が盛り上がりました。討論では、結婚・出産に対する韓国人学生の本音を聴くことができ、すごく新鮮で嬉しかったです。日本で習うのは、両国共に少子高齢化が進んでいることのみですが、討論会では、その原因について詳しく知る良い機会になりました。

◆ 青森中央学院大学学生

今回グループに分かれてディスカッションを行いました。私のグループではそれぞれ役割分担をして教育、観光、福祉の3分野から地方再生を考えました。韓国側からこの大雪だと高齢者が生活しにくいと、それを考慮した案を考えたらどうかと提案があり、地方再生の新たな視点だと思いました。最後に一緒にグループになれて良かったと言ってもらえて嬉しかったです。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 <p>호텔에 있는 회의실 같은 공간에서 오리엔테이션을 진행했다. 앞으로의 일정, 학생대표단 인사 등 준비된 절차에 따라 진행됐고 고 이수현님의 추모영상도 보았다. 이수현님의 부모님께서도 현재까지도 일본 유학생들을 위한 장학금 사업을 하신다고 한다. 이들의 뜻과 이름을 내건 장학금 사업을 지속하시는 것이 무척 대단하다고 느꼈다. 가족을 비롯한 이수현님을 그리워하는 모든 이들에게 선순환적인 추모의 방식이길 바란다.</p>	 <p>어린이食堂 실행위원회 강연에서 가장 인상 깊었던 문구. 도전하는 모습은 멋지고, 그만큼 도전한다는 것은 어려운 일이다. 목공, 추진력, 프라모델이라는 자신의 강점을 활용해 어린이의 행복한 미소와 지역 발전을 위한 노력에 힘쓰는 멘토님의 모습을 보며 나도 지역 발전과 재생을 위해 나의 강점을 파악해 보고자 한다.</p>
<p>2024年1月9日 (Blog) 故李秀賢さんの追悼映像を見ました。ご両親が留学生のために息子の意志と名前を継いだ奨学金事業を現在まで続けていることに強い感銘を受けました。</p>	<p>2024年1月13日 (Blog) 子ども食堂実行委員会の講演で最も印象的だったのは、「挑む姿はかっこいい。挑戦してゴールに向かうことに意義がある」という言葉です。自身の強みを生かして子どもたちの幸せな笑顔と地域発展のために努力する姿を通し、私も地域発展と再生のために自分の強みを探していこうと思いました。</p>

단순히 일본인친구를 사귀는 것이 아닌,
한일 대학생 교류회라는 것을 가지게 되어 나라를 향한 자부
심도 느꼈고
일본에 대한 애착도 높아질 수 있는 계기가 되었습니다
일본인 친구들도 사귀었어요 ^^

일본에선 제트세대로만 하는 것도 배웠고
친구들이 좋아하는 한국 가수들도 들었고
우리도 오타쿠인 거 다들 말 하고..

아아.. 일본인 친구들이 좋아요...

그리고 한국친구들 일본친구들과 열심히 떠돌고 난 후,
지출산, 고령화 문제에 대해 토의하고 발표하는 시간을 가졌
어음



사실 서울에 살면서 지방의 문제에는 크게 관
심이 없었는데, 지방 문제를 해결하기 위해 이
렇게나 많은 사람이 노력하고 있구나라고 배워
서, 앞으로도 관련 문제에 꾸준한 관심을 갖고
살아갈 것 같습니다.



2024年1月11日 (blog)

単に日本人の友達を作るだけでなく、日韓の大学生交流会ということで、韓国に対する誇りを感じ、日本への愛着も高まるきっかけになり、日本人の友達もできました。日本では Z 世代と呼ばれることも学びました。そして、両国の学生と少子高齢化問題について話し合い、発表する時間を持ちました。

2024年11月13日 (blog)

ソウルに住んでいるので、地方の問題にはあまり関心がなかったのですが、地方の問題を解決するためにこれだけ多くの方が努力していることを知り、今後も、関連する問題には常に関心を持ちながら生きていきたいと思えます。

青森 NEWS WEB

韓国の大学生 青森県で少子高齢化対策や地方再生を学ぶ

01月15日 07時07分



海外の学生に日本への理解を深めてもらう外務省のプログラムの一環で、韓国の大学生が青森県を訪れて少子高齢化対策や地方再生の事例について学んでいます。

外務省は日本への理解を深めてもらうと年輪を通じて世界各国から若者を招いていて、今月、青森県には日本語などを専攻する韓国の学生63人が滞在しています。

この「韓国青年訪日団」の歓迎式が先週、青森市の「アスパム」で開かれました。

県観光国際戦略部の松尾英輔次長は「青森らしい冬の景色を楽しみ、多くの県民とふれあって青森の魅力を韓国で広く伝えてほしい」とあいさつしました。

津軽地方の一般家庭に2泊3日ホームステイした韓国青年訪日団の大学生が15日、五所川原市のホテルサンルート五所川原で報告会を開いた。学生たちはさまざまな日本文化体験したと紹介し「青森県の魅力を感じた」と報告した。報告会では学生代表の鄭某さんが「息深い時間を過ごすことができた。韓團に帰ったら、皆さんの温かいと感謝の言葉を伝えたい」と学生とホストファミリーが一緒に登壇し、ホームステイの思い出を報告する韓国の学生がグループに分かれ、13日市、藤崎町など7市町村の家庭に滞在した。報告会では学生代表の鄭某さんが「息深い時間を過ごすことができた。韓團に帰ったら、皆さんの温かいと感謝の言葉を伝えたい」と学生とホストファミリーが一緒に登壇し、グループに分かれ、13日市、藤崎町など7市町村の家庭に滞在した。

2024年1月15日 (NHK 青森)

「韓国の大学生 青森県で少子高齢化対策や地方再生を学ぶ」少子高齢化対策と地方再生をテーマに、一行が青森県内でのフィールドワークや五所川原市周辺でホームステイを予定していることなどを紹介。

2024年1月17日 (東奥日報)

「津軽ステイ『一生の記憶』訪日韓国学生、63人が報告会」2泊3日のホームステイ後に実施された報告会の様子を紹介。

